

公立黒川病院

子どもの貧困を 考える



小児科医師
岩城 利充

貧困の問題を考えると、「人間が普通に生活するとはどのような状態を維持することか」と問うことと、殆ど同じと言えます。貧困とは、社会生活上必要なものが不足していることを言います。食料や衣服、医療などが、社会に参加し、社会の一員として生活するものに必要なものや欠く状態を「相対的貧困」と言っています。年収でいえば、可処分所得が一人なら2012年で122万円、4人家族なら244万円、8人家族なら

ら366万円以下を言います。

子どもを育む家庭が貧困であるとき、子どもは発達の各々の段階の課題を、自分のものとしてゆくことに困難を生じやすい。

欧米の研究は、貧困の家庭に対して、子どもが幼い時の支援ほど効果が大きいと論じ、子どもの発達基盤をつくる乳幼児期環境の重要性を示唆しています。子どもの貧困は様々な人々や種々の活動に接する機会を減じ、幼少期の家庭の不安定、学童期の仲間と共にする活動や青年期の社会参加に困難をもたらし、貧困の再生産をつくりやすくなります。貧困の多様な現実に対応するには、各地域の貧困の現場に関わる人達が共通認識を持ちながら、貧困家庭の孤立を防ぎ、子どもの活動や社会参加を促し、まわりの人々とのつながりが細くならないように、共に気軽に集える場所があればいいのだけども、みなさん、どう思いますか？

アルコールと 食道がんについて

内科医師 殿塚 規雄

昨今、有名人が自身の病名・病状をカミングアウトする時代ですので、「食道がん」を御存知の方が多いいと思われます。この食道がんは、アルコールと煙草と関係があります。アルコールを飲むと、主に肝臓でアルコール（エタノール）↓アセトアルデヒド↓酢酸と分解されます。ALDH2（2型アルデヒド脱水素酵素）はアルデヒドを酢酸に代謝する酵素で、その酵素活性の弱い人が飲酒行動を続けると食道がんになり易いことが解明されています。「飲酒で顔が赤くなる」がその特徴です。現在飲酒で顔が赤くならない人でも、飲酒初心者の頃に「顔が赤くなった」といわれた人です。飲酒で顔が赤くなる現象をフ

ラッシングといいいます。つまり、フラッシング陽性者の90%はALDH2酵素活性が弱く、飲酒行動を続けることで食道がんになりやすいと言えます。また、「昔は酒が弱かったけど、だんだん強くなった」を自負する人もALDH2酵素活性が弱い人で、食道がんのハイリスクグループです。内視鏡検査（胃カメラ）を受けるときには「アルコールで顔が赤くなったことがある」と申告することをお勧めします。

